

現代企業における組織形態の分析

～ティール組織は事業部制を代替するか～

要旨

氏名：西澤薫

本研究は企業をはじめとした組織形態についての研究である。近年注目されているティール組織が事業部制に代わりうるかを検証するため、ティール組織と従来の事業部制を、モデルを用いて比較検討した。その結果、ティール組織は事業部制よりアイデアを共有しやすい環境である一方、事業部制はティール組織よりも迅速に作業を行えるというトレードオフが存在することがわかった。このトレードオフの論理は次のようなものだ。事業部制では上司のバイアスや作業の割り振りへの不満がアイデアの共有の障害になるが、いったん決まった決定は上司の効率的な作業配分のもとで効率的に行われる。一方で、ティール組織は選好が一致していて、アイデアを共有しやすいが、選好がバラバラになってしまうと、方針の決定に時間がかかってしまう。

さらにこのトレードオフを背景にティール組織は変化の多い市場や複数のスキルを持ったメンバーで構成される場合有利であり、事業部制は変化の少ない市場やメンバーの持つスキルに多様性がある場合有利であることがわかった。以上のことからティール組織は事業部制を代替するのではなく、事業部制と同様に組織が戦略に合わせて組織形態を選ぶ際の一つの有力な選択肢である。